

第3期 施工研究グループ活動報告

施工研究 Gr リーダー 浦 満彦（鹿島建設）

サブリーダー 川口 光雄（奥村組）

建設プロジェクトにおける施工の役割は、設計段階で設定された仕様・品質を、構造物としていかに正確に具体化することにあります。特に最終処分場は、高い信頼性が強く要請される構造物であり、このためには計画・設計・施工・維持管理を統合した取組みの中で最適解を得る必要があります。この認識のもと、施工研究グループは、LS研究会発足以来施工に留まらず上流段階へのフィードバック、下流段階からの情報活用などを強く意識し取組んできました。代表的なテーマとしては、遮水シートの施工管理技術や土質遮水工の設計・施工技術の研究などが上げられます。これらは、処分場技術基準の強化にも対応した内容となっており、実際の業務に活用されていると考えます。

一方、新規に建設される処分場基準の強化と合わせて、既存処分場の改善が大きなテーマとして指摘されるようになりました。具体的には、平成10年の国の調査結果として不適正処分場838箇所が公表するなど実態が明らかにされ、その改善が緊急となってきました。

第3期LS研は、まさにこの時期に開始される背景下であり、このテーマを集中して取り上げることになりました。このテーマは処分場改善に関して計画、設計、施工、維持管理全てを包含することになるため、計画についてはシステム研究グループが担当、維持管理特に浸出水処理については維持管理グループの協力の下に進めました。研究成果は実務者の有用な参考役に役立つように、年度ごとに纏まった形で成果を取りまとめ、マニュアルとして利用できるように心がけました。1年目のレポートはメンバー企業に、2年目のレポートは800部を印刷し、メンバー各社に留まらず、関係者に提供出来ました。

第3期LS研3年目には、不適正処分場の研究を通して廃棄物の早期安定化、リニューアル研究が重要な課題であるとの認識に立ち、これらのテーマを独立させ、「不適正処分場の再生・閉鎖における構造物の改修法」に加え「廃棄物処分場安定化促進工法研究」「最終処分場のリニューアル工法研究」の3つのテーマで取組みました。

平成15年にスタートした第4期LS研では、研究グループ、研究テーマの見直しが行われ、「廃棄物処分場安定化促進工法研究」「リニューアル工法研究」は設計・施工グループ及び管理グループのテーマの中に引き継がれております。

以上の3テーマが、第3期LS研において施工研究グループが取り組んだ研究テーマです。